

新年のご挨拶



大阪府信用金庫健康保険組合
理事長 高橋 知史

新年あけましておめでとうございます。

加入員ならびにご家族の皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、心よりお礼を申し上げます。

さて、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の拡がりは、昨年の夏から秋にかけて過去最大の感染者を出すなどピークを迎え、その後、ワクチン接種の進展に伴って大きく感染者の減少をみたところです。昨年9月末には、医療の逼迫状況もようやく改善し、長引いた緊急事態宣言等が解除されました。しかしながら、いまだに国民の社会生活や経済には大きな影響を与え続けており、新たな変異株の出現による感染拡大が懸念されるどころです。そのような状況下にあつて、感染リスクを避けるため、医療機関を利用される方々が減り、その結果、昨年度は国全体の医療費が1.4兆円も減少しました。

また、急激な感染者の減少にともない、アフターコロナの声も聞こえ始め、コロナ感染収束後の社会における行動変容や経済活動の変化にどのように向かい合うか、またどのように感染予防に取り組むかが課題となっております。

一方、医療保険に目を転じますと、今年（2022年）から団塊の世代が75歳以上の方々の加入する後期高齢者医療制度へ移行し始め、高齢者医療費が大幅に増加しはじめることとなります。加速する高齢化に伴って、高齢者医療費の負担が現役世代にもさらに重くのしかかってくる「2022年危機」の到来ともいえる時代を迎えることとなります。国民皆保険制度の持続には、医療費の負担構造の改革が待ったなしのところであり、世代間の公平を担保した制度の大幅な見直し、また社会保障制度全体の見直しが急務となっております。

当健康保険組合では、このような社会の変化に柔軟に対応しながら、コロナ禍における生活様式の変化や行動変容に沿った健康情報提供や皆さまの健康管理、健康づくりを支える事業を推進してまいる所存です。

加入員の皆さまには、日常的な感染症の予防対策とともに、定期的な健康診断と健診結果を活用した健康づくりへの取り組み、さらには、疾病予防と医療費の適正化に引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとって実りのある一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。